12. TNF ファミリーに属するサイトカイン BAFF の血中濃度はバセドウ病の活動性を反映する

1) 琉球大学医学部大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）
2) 名嘉村クリニック
3) 豊見城中央病院 糖尿病・生活習慣病センター
4) 徳島大学医学部 心臓血管病態医学講座
○砂川澄人[1)]、幸喜毅[2)]、平良伸一郎[1)]、植田玲[1)]、屋比久浩市[1)]、池間朋己[1)]、仲地あやこ[1)]、比嘉盛丈[3)]、山川研[1)]、島袋充生[4)]、益崎裕章[1)]

【背景・目的】B 細胞活性化因子（BAFF）と分化誘導リガンド（APRIL）は B 細胞の生存と分化を制御するサイトカインである。これらのサイトカイン濃度の上昇は B 細胞や T 細胞の過剰な活性化、さらには自己免疫疾患の発症を引き起こすことがある。様々な自己免疫疾患において、これらのサイトカインの血清濃度が上昇することや病勢を反映していることが報告されている。今まで BAFF とバセドウ病の病勢との関連を指摘した報告はなく、我々はバセドウ病における BAFF と APRIL の病態生理的意義を明らかにするため、バセドウ病患者における血清 BAFF 及び APRIL の濃度を解析した。【方法】新たに診断された23人のバセドウ病患者と20人の健常者を対象として ELISA 法にて血清 BAFF 及び血清 APRIL の濃度を測定した。さらにバセドウ病患者における様々の甲状腺機能パラメーターと血清 BAFF 濃度との関連性を検討した。【結果】バセドウ病患者の血清 BAFF 濃度は正常人と比較して有意に高値を示した。(1329 ±435 pg/mL vs. 983 ±308 pg/mL, $p<0.01$)一方、血清 APRIL 濃度はバセドウ病患者で有意な上昇を示さなかった。血清 BAFF 濃度は Free T3や Free T4、TRAb の血中濃度とは有意な相関を示さなかったが、バセドウ病の病勢を反映する臨床指標である Free T3/Free T4血中濃度比と有意な正相関を示した。(n=23, 相関係数: 0.48, p=0.03)【結論】本研究は血清 BAFF 濃度とバセドウ病の病勢の相関性を検討した初めての研究であり、バセドウ病の病勢を知る方法として血清 BAFF 濃度測定の有効性が示された。